

# Thinking for Writing

英語的発想を学ぶための英作文と英文法

TSURUMI SHOTEN

## Thinking for Writing

Copyright©2019 by Akira Machida  
and OTOWASHOBO TSURUMISHOTEN  
All rights reserved.

Photo credits:

©Bisual Photo—Fotolia.com

©rvenitsa—Fotolia.com

### 自習用音声について

本書各章の Recitation の音声は以下より無料でダウンロードできます。予習、復習にご利用ください。

(2019年4月1日開始予定)

<http://www.otowaturumi.com/3852/>



URLはブラウザのアドレスバーに直接入力して下さい。  
パソコンでのご利用をお勧めします。圧縮ファイル(zip)ですのでスマートフォンでの場合は事前に解凍アプリをご用意下さい。

## はじめに

通常、学校で文法を勉強するときはよく整理された單元ごとに勉強することになります。このような勉強法は重要な文法事項を余すところなく網羅できるというメリットがあります。しかしながら、英語を使用する実際の現場では、学んだ單元ごとに文法事項に出会うわけではありません。そのため、このような勉強法だけでは、言いたいことを表現するとき、どの文法事項を用いればよいかかわからないという問題に直面することになります。

これまでの單元ごとの勉強を仮に文法の「縦割り行政」と呼ぶことにすると、大学で学ぶ英文法は、この縦割り行政を打破することから始まります。そして、このような問題意識から、本書は文法事項を横断した構成にしてあります。もちろん、この縦割り行政を打破しようとする試みはこれまでにもなされています。例えば、空港やレストランなど使用の場面に基づいた分類や依頼や謝罪などの対人機能に着目した分類の仕方です。しかしながら、本書ではそのような分類もしていません。本書は、人間の認知能力、社会性、文化継承といった観点から言語の仕組みを解明しようとしている認知言語学の視点を取り入れ、これまで高等学校で学習してきた内容の整理と強化を行なう試みです。言うなれば、これまで縦糸だけで編まれていた文法に横糸を通す作業だと考えてください。

また、本書を通じて、英語と日本語に見られるものの見方の違いを体感することになると思います。本書で学習することを通じて、言葉に対する見方が変わり、英語学習のあり方を見直すきっかけになるかもしれません。文法を無味乾燥な規則として捉え、機械的に暗記した単語をこの規則に入力して文（らしきもの）を作り出すという考え方は、この際、捨ててしましましょう。大切なのは、英語母語話者に受け継がれている英語のものの見方を具体的な表現を通して学習することなのです。

最後に、英語の感覚にまで踏み込んで一つ一つ丁寧に英文チェックをしていただいた Christopher Knobler 氏と Ruben Polo-Sherk 氏、執筆に際し辛抱強く励ましていただいた音羽書房鶴見書店の荒川昌史氏にこの場を借りて感謝の気持ちを表したいと思います。

町田 章

## 本書の特徴

本書の各ユニットの構成は、Recitation, Part A, Part B, Part C の四部構成になっています。冒頭の Recitation では、そのユニットの代表的な学習事項を含んだ例文を効率よく覚えられるよう工夫してあります。続く Part A, Part B, Part C は、緩やかに、基礎事項の確認、発展事項の追加、実践への適用という流れになっていますが、これは厳密な区別ではなく、基本的に全 Part を通して新たな発見ができるように工夫されています。

また、本書では隣の頁の見本のように、基本的に左ページに例文と問題が載っています。そして、右ページには板書メモ用のノート欄が設けてあります。一般的な授業では学生がノートを持参して板書や説明事項をノートに書き込むスタイルが多いと思います。しかし、このやり方には問題もあります。ノートを忘れてきたり、ノートをなくしてしまったり、特に、期末試験が終わってしまうと、教科書とノートは別々の場所に保管され、最後にはノートだけが捨てられてしまうこともあります。もったいないことに、こうして、教師から学んだ多くのことは永遠に失われてしまうのです。本書ではこのようなことがないように、教科書とノートを一体化してあります。教科書にどんどん書き込みながら授業を受け、あなただけの参考書を作ってください。コース終了後には、教科書一杯に書き込みのあるあなただけの参考書が大学時代の思い出とともに残るはずです。



## 本書の構成

### Recitation

本書では、ユニットの冒頭にそのユニットの代表的な学習事項を含んだ5つの暗唱例文を載せてあります。文法を理解することは重要ですが、それとともに例文を覚えることも英語が上達するためには重要なことです。暗唱はまずスムーズに読めるようになるまで何度でも繰り返し音読することから始めましょう。例文はつかえながら読んでいるうちは覚えられませんし、覚えても使えるようにはなりません。繰り返し音読してスムーズに読めるようになったら、次は教科書から目を離して空で言ってみる練習です。音読を十分に行っていれば、意外と簡単に覚えられます。そして、何も見ないで言えるようになったら、次は覚えた例文を書き出す練習です。これを各授業の前にこなしておけば、かなりの力がつくはずです。音声を用意しましたので、ダウンロードして利用して下さい。

### Part A Let's Discuss it!

このパートでは、これまで学んできた英語に関する知識を確認するとともに、その知識を現実の英語に適用することの難しさを体験します。間違いを恐れず、話し合いを通して文法事項の理解を深めてください。

ここでは、学生はペア、または3～4人のグループになって話し合いを行います。英語で話し合いができるレベルであれば英語で行ってもかまいませんが、無理して拙い英語で浅い議論をするよりも、日本語でかまいませんので深い議論を心がけましょう。とにかく、これまで学んできた英語に関する知識を総動員してお互いの意見をぶつけ合うことが大切です。間違いを恐れてはいけません。大切なのは、自分の考えを持つこととそのような考えを持つに至った理由を正しく相手に伝えることです。「なんとなくこう思う」のような私見を一方的に表明するだけでは、不十分です。必ず、理由を掘り下げて考え、自分なり意見を持ち、それを人に伝え、逆に、人の意見を聞き、その意見を持つに至った理由を理解するよう心がけましょう。

## Part B Choose the correct answer

このパートでは、Recitation と Part A で学んだ学習事項の確認とそこでは扱いきれなかった更なる興味深い文法事項や表現を学びます。そのため、前のパートの理解だけでは解けない問題が多く含まれています。問題を通して新しい文法事項や表現を学習するという心づもりで問題に取り組んでください。

このパートの問題は、通常の練習問題のように各人が個別に取り組んでもかまいませんが、Part A と同様に、パートナーと相談しながら、答えを見つけていくやり方もお勧めです。なぜその選択肢を選んだのかをパートナーと話し合いながら作業を進めていくと楽しいだけでなく、文法事項の理解が進み、忘れにくくなります。特に、不正解の選択肢についても、それがなぜ不正解なのかを話し合ってみることが重要です。不正解には不正解である理由があるからです。

## Part C Write it in English

このパートでは、英作文をすることを通して、そのユニットで学習したことをいつどのように使うのかを学びます。従来の教科書では、そのユニットで学んだことを機械的に適用するだけで答えが出るが多かったと思います。しかしながら、そのような学習法では英語を実際に使用する際に困ってしまいます。なぜなら、どの文法事項を使うのか、どの構文を使うのか、どの単語を使うのかを決定するところがむしろ最も重要でかつ難しいところだからです。どの文法事項、構文、単語を用いるかがあらかじめ指定されている練習問題では本当の意味での実践的な練習にならないのです。

以上を踏まえて、このパートでは、以下の三つに注意して問題に取り組んでください。一つ目は、その章で学んだことを機械的に当てはめるのではなく、必ず、日本語の文が何を意味しているのか、どんなことが言いたいのかを最初に考えるようにしてください。それから、二つ目は、答えは一つではないということを肝に銘じてください。ただし、いろいろな表現の仕方があるからといって、それらが全く同じ意味を表すわけではないことも理解してください。表現が異なれば意味も異なるのです。その上で、最後には必ず模範解答を覚えるようにしてください。英語らしい表現を身につけるためには、自然な英語をできるだけたくさん覚えることが必要です。特に、本書で挙げられている英語の表現はできるだけ無味乾燥にならないように配慮してありますので、気に入った例文はどんどん覚えていきましょう。





# 目次

はじめに	iii
本書の特徴	iv
本書の構成	vi
<b>Unit 1</b> ことばに表れる人のころろ (Introductory unit)	1
<b>Part I</b> モノとコトを捉える視点	9
<b>Unit 2</b> 時の感じ方いろいろ (時制と相の交差点1)	10
<b>Unit 3</b> 「た」のいろいろ (時制と相の交差点2)	16
<b>Unit 4</b> Stoneは投げられるか? (可算名詞と不可算名詞)	22
<b>Unit 5</b> 聞き手の心を察する力 (冠詞)	28
<b>Column 1</b> 形が違くと意味も違う	34
<b>Part II</b> シンプルな表現だけじゃつまらない	35
<b>Unit 6</b> 動詞を変える (準動詞の世界)	36
<b>Unit 7</b> コトとコトとの組み合わせ (関係詞)	42
<b>Unit 8</b> もしもの世界 (仮定法)	48
<b>Unit 9</b> 文のバリエーション (基本構文を使う)	54
<b>Unit 10</b> 表現の型を探す (豊かな構文の地平)	60
<b>Column 2</b> 言語によって世界の見方が違う	66
<b>Part III</b> ありのままを受け入れる	67
<b>Unit 11</b> ウサギ? アヒル? (あいまいな前置詞の世界)	68
<b>Unit 12</b> ことばの相性 (コロケーション)	74
<b>Unit 13</b> 実例から学ぼう (英語らしさの探究)	80
<b>Unit 14</b> 英語の発想に近づく (「らしさ」を生み出す表現)	86
<b>Column 3</b> コミュニケーションに文法は不要だと言うけれど	92
Further Reading	93
Task Sheet	



# Unit I



## ことばに表れる人のこころ

### (Introductory unit)

高校までの学習では一つの問題に対して一つの答えがあることが多かったと思います。特に、正解・不正解をはっきりさせなくてはならない大学入試ではその傾向が強くなります。これは仕方のないことです。でも、現実世界では答えは一つではないことがたくさんありますね。言葉に関しても同様です。ある事柄を表現したいとき、表現の仕方は一つとは限りません。いろんな表現があるのです。もちろん、異なった表現を使うには訳があります。「千円もある」と言うのか「千円しかない」と言うのかでは同じ千円でも明らかに異なった捉え方をしていることを表しています。客観的には同じ出来事でも話し手の捉え方によってどのように表現するかが異なってくるのです。文法は無味乾燥なルールではありません。話し手が出来事をどのように捉えているかを聞き手に伝える大切な道具なのです。このことを実感するために、次の Unit1 では、話し手の捉え方が端的にことばに表れている例を集めてあります。文法項目ごとに整理されていませんので、これまで学んだ英語に関する知識を総動員してチャレンジしてみましょう。

# Unit 1

## ことばに表れる人のこころ (Introductory unit)



2-3

### Recitation

1. An optimist says the glass is half full. A pessimist says the glass is half empty.
2. You've got to read an English textbook aloud if you want to understand English without translating.
3. Can you tell the difference between "Write with a pencil" and "Write in pencil"?
4. Shizuka is always taking a bath.
5. The old man used to be rich and have a lot of friends.

### 本ユニットのテーマ

人は同じ一つの状況を異なった気持ち、異なった視点で捉えることができます。そして、文法は話し手がどのようにその状況を捉えているかを表す手段にもなるのです。特に、複数ある言い方の中で、普通の言い方を避けてあえて別の言い方をすると、特別なニュアンスが生じる場合があります。ことばには話し手が心の中で思っていることが自ずと表れてしまうのです。

## Part A Let's discuss it! →→→→→→→→→→→→→→→→

- (1) どちらのほうが人数が多いでしょうか？

There will be few people voting for the US. President in the next election.

There will be a few students taking part in the teacher's farewell party.

- (2) 駅で待ち合わせをした後、一緒にどこかへ行った感じがあるのはどっち？

I met my ex-girlfriend at the station.

I met my ex-girlfriend in the station.

- (3) 言われて嬉しいのはどっち？

I felt that you were my true love.

I feel that you are my true love.

- (4) 卒業論文のタイトルとしてはちょっと傲慢に響くのはどっち？

The Study of English Education in Japan

A Study of English Education in Japan



## Part B

### Choose the correct answer →→→→→→→→→→→→

- (1) 僕と結婚してください。  
{Will / Can} you marry me?
- (2) あの映画、絶対見なよ。ストーリーと音楽の調和が絶妙だよ。  
You {have to / should} see the movie. The story and soundtrack go perfectly with each other.
- (3) その先生は、TA にスライドショーを手伝ってもらった。  
The teacher {had / made} the teaching assistant help with the slide show.
- (4) 万一彼氏から電話がきたら、ここにはいないと言ってね。  
If my boyfriend {rings up/ should ring up}, say that I am not here.
- (5) 先生は人前で英語を話す自信はほとんどなかった。  
The teacher has {a little / little} confidence in speaking English in public.
- (6) 「行かないで」と言えばよかった。そしたら、今頃は私たち一緒にいたかも。  
I {didn't say / should have said} "Don't leave." Then we might be together now.
- (7) その宇宙探査機は新しく発見された惑星に月を見つけた。  
The space probe just discovered {a / the} moon of the newly-discovered planet.
- (8) 一つの言語を学ぶにつれ、私は少しずつ言葉それ自体に興味を持つようになった。  
As I learn {a language / language}, I gradually become interested in {a language / language} itself.
- (9) ジョンには彼女はいない。それどころか友達もいない。  
John has no {girlfriend / girlfriends}. In fact, he has no {friend / friends}.
- (10) 学生は全員パソコンを一台ずつ授業に持ってくるように。  
{Every / All} student must bring a laptop to class.

A series of horizontal dotted lines for writing, spanning the width of the page.

## Part C

## Write it in English →→→→→→→→→→→→→→→→

(1) カエルは死んだものは食べない。

---

(2) 昼飯食べた？ 一緒に食べない？

---

(3) まだ着かないの？（子供が車の後部座席でぐずっている場面で）

---

(4) 大学生の間にもっと英語を練習しておけばよかった。

---

(5) 私は以前 YouTube に動画を投稿したことがある。

---

(6) ホワイトハウスは東京が彼らを裏切ったことに気づいた。

---

---

(7) 英語を話す人たちはみな国際的であるという社会通念について少し落ち着いて考えてみた方がいい。

---

---



A series of horizontal dotted lines for writing, spanning the width of the page.